

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 穴生 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体には、全国平均正答率よりやや下回っていたが、ほぼ同程度の結果が出ていた。 ・長文を読んで叙述や描写をもとに考え解答する問題(「読むこと」)については、ほかの領域と比較して、正答率が低かった。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに捉える問題。
算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均点を上回っている。特に「数と計算」領域は、全国平均を大きく上回っていた。 ・無解答率は全問を通して低いが、立式を問われる問題や思考を記述する問題に無解答が見られた。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題。 ・示された場面のように数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかをみる問題。 ・図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解しているかをみる問題。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・百分率で表された割合を分数で表すことができるかをみる問題。 ・百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができるかをみる問題。
理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均を上回っている。特に「生命」を柱とする領域の正答率が高かった。 ・記述式の正答率が全国平均を下回っていた。記述式の問題に無解答が見られた。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「生命」を柱とする全ての問題において、正答率が高かった。 ・問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの筋道を構想し、自分の考えをもって解答する問題。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>学校での学習や学習習慣、自尊感情・夢・目標等の設問では、肯定的な意見を回答し、すべて全国平均よりも上回っていた。これからも、短期、中期、長期にわたる目標設定や学校生活全体を通して道徳科等で学習したことを児童の生活に生かしていくようにする。</p> <p>1日当たりの読書時間を問う質問で、「1日1時間以上」の回答が全国平均のおよそ2倍もあった。図書委員会を中心にさらに読書への関心を深める取組を行っていくようにする。</p> <p>コロナ禍の中で、地域の行事や催事が昨年まで行われていない現状にあったが、少しずつコロナ禍前に戻っていることもあり、地域や社会への行事等の関心が高まっていた。</p> <p>家庭での学習習慣も年々、定着が進んできている。読書に向かう姿勢も向上して学習習慣につながっている。今後も引き続き、学習の仕方の紹介など、効率よく学習できる方法や内容を紹介し、「家庭学習がんびり週間」を全校で取り組んでいくようにする。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・3教科の結果で共通して「読んで考える。考えを書く。」という問題の正答率が低かった。思考を記述する問題を苦手な児童が多いので、授業の中で考え方を記述する学習を今後も全校で取り組めるようにしていく。
- ・学力アップの時間に、基礎基本的な国語や算数の問題を取り組む活動を引き続き行っていく。
- ・読書の時間等には、できるだけ読解力に結び付くような読書指導を進めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭での学習については、全校で現在行っている「家庭学習がんびり週間」が定着してきた。今後も保護者や教師がさらに内容や方法等についても助言し、意欲を高め、効果的な家庭学習を目指せるようにしていく。
- ・基礎的な生活習慣の定着については、「北九州子どもを育てる10か条」や「穴生スタンダード」等の大切さを学校だよりや学年・学級だより等を通して、保護者との連携を継続していく。また、子どもたちにも道徳科や特別活動、保健の学習等を通して日常的に指導を続けていく。